

主体的に学ぶ — 望ましい習慣の形成 ④ —

主体的な学びを支えるもの

- 第14号で述べたとおり、「主体的」とは、「なすべきことを自分で決めて行うさま」を指します。

本号では、別の観点から「主体的な学びを支えるもの」について記します。



- 子どもたちが課題を解決していく学習の過程で、次のような場面を見かけることがあります。
 - ▶ 文章や人の話をうのみにしてしまう。
 - ▶ 物事を一面的に捉え、満足してしまう。
 - ▶ 独りよがり発想に陥り、思考に広がりや深まりがみられない。

- こうした学習実態の改善に資するのが、いわゆるクリティカル・シンキングです。物事を多面的・多角的に吟味し見定めていこうとする態度が、子どもたちに粘り強く試行錯誤を重ねさせ、学びの質を高めます。

- 第4号で述べた「学びの質を高める三つの内言」、①他に考え方はないか、②筋が通って分かりやすいか、③本当にこれでよいか は、生涯にわたり子どもたちの「主体的な学び」を支えることになります。

読書の効用

哲学者／ソクラテス

他の人々が書いたものを読んで、自分自身を高めること。そうすれば、他の人々が苦勞して到達した場所に、簡単に到達できる。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ 読書の効用を端的に言い表した言葉です。